Peace Now! Okinawa

Peace Now！ Okinawa2020

皆さんは沖縄にどんなイメージ持っていますか？

透き通った青い海、他県とは違った生き物や気候など、その他いろいろなイメージを思い起こすと思います。

ですがその裏には75年前から今もなお残り続ける問題があります。

日本で唯一あった地上戦、その跡が今も沖縄に色々な形として残されています。

配信予定：2021年1月下旬

に向けて、鋭意作成中です！

おすすめポイント！

1、知らなかった人でも簡単に学べる！

2、冊子に動画（ガイド）もついているのでセミナーに近い学びができる！

3、組合員ならだれでも読めるので学委以外の友達とも意見交換ができる！

今回沖縄はコロナウイルスの影響もあり、現地開催ではなく、冊子と動画という形で学びを提供することになりました。
みなさんと一緒に学ぶことができなかったのは悲しいですが、この冊子を読んで企画などの役に立てたらうれしいです！
（PN!O企画局長　ゆーき）

Peace Now! Okinawa　Contents

実行委員長・企画局長挨拶　P2

戦前・戦中　P3～
・戦前の教育　P4
・15年戦争の流れ　P8
・沖縄戦の流れ（上陸～組織的戦闘の終了）P15

戦後　P27～
・沖縄の歴史　P28
・今も残るミックス文化（アメラジアン）　P32
・クリアゾーン　P35
・辺野古移設問題　P39
・米軍の犯罪　P44
・日米地位協定　P47

参考資料　P51
PN!Okinawaの紹介　P53
事後交流会のお知らせ　P55

＊動画で学べるコンテンツ＊
・クリアゾーン
・首里城
・轟壕

実行委員長挨拶

みなさん、こんにちは。Peace Now!Okinawa2020実行委員長の吉村暢基です。今年度は新型コロナウイルスの影響により現地で開催する事がかないませんでした。しかし、現地実行委員は何とかして沖縄を通じて平和を考えてほしいと考え、この冊子を発行する事になりました。また、冊子だけでは伝わりにくい部分もあると考え、少しでもイメージしやすいように動画資料も作りました。冊子と一緒にご活用ください。

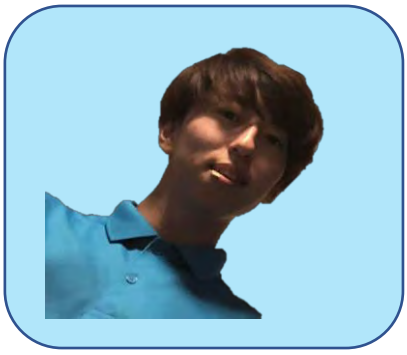
さて、皆さんは「沖縄」と聞いて何をイメージしますか？青い海、温かい気候、南国などをイメージするかもしれません。しかし、そんな沖縄では75年前に地上戦が繰り広げられました。多くの人が犠牲になりました。そこから75年たった今では、基地問題があります。沖縄の人々にとっては、今は「平和」といえるのでしょうか。沖縄以外に住む人には関係ないことなのでしょうか。これは沖縄県だけの問題ではなく、日本に住む人全体に関係があることだと思います。この冊子を通じて、少しでも「平和」について考えてみませんか？そして、人と語ってみましょう。そんなひとが一人でも多くなることを願っています。そして、ぜひ新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着くと沖縄へ訪れ、この冊子を思い出してもらえればと思います。

全国大学生協連学生委員/立命館大 卒
吉村 暢基

企画局長挨拶

こんにちは！Peace Now! Okinawa(以下、PN!O)の企画局長をしています早瀬勇気です。毎年沖縄で開催されているPN!Oですが、今年は新型コロナウイルスの影響で現地開催は中止と判断しました。現地実行委員のみんなで、他に何か皆さんにできることはないかと考えた結果、冊子とガイドの動画をお届けし、セミナーの代替とすることにしました。冊子では、例年のセミナーの内容と同じく「戦前の日本(沖縄)が戦争に向かっていった背景について」「約3ヶ月間にわたる沖縄戦について」「終戦後から今に至るまでの戦後の沖縄の歩みについて」を主に、まとめました。

さらに今年は、【沖縄・日本・アメリカの３つの視点から沖縄戦を捉えること】と【戦後の沖縄に存在する米軍基地を良い悪いからではなく、様々な方面から捉えること】を意識しました。一方、動画では、沖縄戦時中、日本軍の司令部が置かれた場所であり、今となっては沖縄を代表する観光地である首里城・沖縄戦時中、軍官民の人々が逃げ込んだことで、日本軍による住民虐殺が起こった轟壕・戦後、基地問題の象徴となった普天間基地の近くに存在する嘉数高台の3カ所を選び、各実行委員にガイドしてもらいました。例年のセミナーでは、人数的な問題から行けなかったような場所も入っているので、今年ならではの学びが得られるのではないかと思います！また、冊子や動画を見て沖縄の歩んできた歴史や今も抱える沖縄の問題について知り、みなさんの地元や住んでいる地域の社会問題にも目を向けて欲しいと考えています。みなさんが、PN!Oを経験することで、今ある日本や世界の社会問題を考える第一歩になれば嬉しいです。今年は、現地開催ができずみなさんと会うことが出来ませんでしたが、ぜひ動画などを見て、来年沖縄にくることを楽しみにしてもらえればと思います！



琉球大学4年
早瀬　勇気

戦前
戦中

獲得目標
・組合員が多角的・多面的にみることを通じて
今まで自分が持っていなかった視点に気付く。
・組合員が今社会で起きていることに対して
自分なりの意見を持つ。

◆戦前の教育
◆年表
◆沖縄戦の流れ（上陸～組織的戦闘の終了）

戦前の教育

みなさんは、75年前に生きていた人々に対してどのようなイメージを持っていますか？

天皇陛下を神と見なし、「お国のために」と、自分の命を捧げる“異常者”というイメージを持つ人もいるかもしれません。

しかし、彼らは異常だったわけではなく、そこには、
2020年現在と1945年当時の「教育の違い」があります。
ここでは、その背景となった戦前の教育について見ていこう！

◎教育勅語

正式名称：「教育ニ関スル勅語」
（※「勅語」とは、天皇が国民に対して発する意思表示の言葉）
「親を大切にしましょう」や「兄弟と仲良くしましょう」または「勉学に励み、職業を身につけましょう」という基本的道徳が記されていた。

しかし、もっとも大切とされていたのは、「**もしも国に一大事があった場合には、お国のために働きなさい**」という内容だった。
教育勅語により、「お国のために戦争で戦うことは、日本国民として名誉なことなのだ」という意識を子供のころから徹底して学校教育の中で教え込まれた。

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹フルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シシ國法ニ遵フ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ナル臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ倶ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト倶ニ拳々服膺シテ咸其德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ
明治二十三年十月三十日
睦仁

◎御真影と奉安殿

＊御真影：天皇・皇后両陛下の写真のこと。
「天皇は神」であると教えられていた。
この御真影は全国の各学校にあり、陛下の分身と考えていた。

御真影は奉安殿という場所に教育勅語と共に置かれていた。奉安殿は大抵学校の校門付近に置かれており、その前を通る時には必ず，奉安殿内の御真影に向かって最敬礼をしなければならなかった。

図１

図2

◎方言札

沖縄方言（うちなーぐち）を禁止し、日本語に同化させるため、「方言札」という制度が導入された。
沖縄方言を使った児童・生徒には、主に「方言札」と書かれた札を首から掛けさせたうえ、成績も減点した。

札を外すには他に沖縄方言を使った生徒を見つけて札を渡していくしかなかった。そのため、わざと方言を言わせるように仕向けて札を渡したり、弱い児童・生徒に札を押し付けたりして、友人関係が悪くなることもあった。

方言が禁止されたのは学校だけではなく、各家庭においても同じであった。

図3

◎教科書の変化

1933年から導入された国語の教科書『サクラ読本』は「サイタサイタ」で始まり、散り際がいさぎよい「軍人」を象徴するサクラが用いられた。

図4

沖縄戦当時に在学した生徒のほとんどは「サイタサイタ」で育った世代だ。

「教育」について

ここで、みなさんに一度立ち止まって考えて欲しいことがあります。
「その時代時代の教育のあり方を何が形作るのか？」
ということです。

私は、その問いに対する答えは「**政治**」だと考えています。
政治とは、辞書によると、
「社会の対立や利害を調整して社会全体を統合するとともに、
社会の意思決定を行い、これを実現する作用」であるそうです。

それを踏まえて政治と教育の関係について考えると、
政治によって決められた“社会の意思決定“を実現する人材を育てることが教育の役割である、と捉えることができます。
さらにいうと、教育は政治的な考え方の影響が強く
反映されるものである、と言えると思います。

そして、政治と教育について考えたその先に、
「社会が犯したことの責任は、そのような社会にした
教育や政治にあるのではなく、**そのような社会に向かわせた自分たち一人一人の責任である**」という価値観があることに
気づかされました。

なので、みなさんにも**「その時代時代の教育のあり方を何が形作るのか？」**という問いについて考え、
自分なりの答えを見つけることで、新たな発見につなげ、
社会に対して考えるきっかけになればいいなと思っています。

１５年戦争の流れ

1931年の満州事変から1945年のポツダム宣言受諾までの15年間のこと。
満州事変・日中戦争・太平洋戦争は相互に関係しており分けることのできない一続きの戦争であるという認識から「15年戦争」と言われる。

なぜ「15年戦争」なのか？…
この呼称が生まれたのは第二次世界大戦における日本の戦争を日米戦争に限定し、中国戦線における日本の敗北、中国への加害責任を曖昧にしてしまわないためである。
第二次世界大戦における日本の侵略戦争を切り離してみるのではなく、関係性があり、分けることのできないものとしてとらえ、特に中国や東南アジア諸民族への侵略認識の呼称として使われる。

日本の外交　　**15年戦争の流れ**　　**アメリカや連合軍の外交**

日本は第一次世界大戦に勝利し、
好景気になる
↓
1923年関東大震災で不景気に…
1925年治安維持法成立世界恐慌のあおりを受け、日本でも1930年に昭和恐慌

不景気に拍車がかかる

1929年に世界恐慌が起きる
各国がブロック経済の政策をとり
世界的に経済が停滞…

不景気を打開するため
資源を求めて満州へ！
日本は資源が乏しい…

１９３０年

関東軍は柳条湖事件を中国国民軍の仕業だと断定して中国軍と戦闘して満州を占領

１９３１年　**満州事変**

1932年満州国建設

１９３２年

１９３３年

国際連盟のリットン調査団は「日本は鉄道爆破に周到な計画用意し、迅速かつ的確に鉄道爆破を行ったとして満州国は自律的独立国家ではない」とした

リットン調査団の調結果を受けて
国際連盟を脱退

１９３４年

国際社会から
孤立を深める

１９３５年

1936年日独防共協定

１９３６年

1937年盧溝橋事件
（盧溝橋付近で夜間に銃声が聞こえ、日本兵が数分間の間、行方不明になるという事態が起きたために銃声が中国軍のものだと思い込み、未明から攻撃を開始した）
日独防共協定
にイタリアが加わる
南京大虐殺
（南京を占領することに成功する）

１９３７年　**日中戦争**

図5.

←南京入城の様子

１９３７年

日中戦争

米英が中国側を支援→泥沼化

日本の中国侵攻、東アジア進出を受け、
米英仏の東南アジアの植民地も危うくなる…
→ABCD包囲網

対日経済閉鎖を目的
A(アメリカ)B(イギリス)C(中国)D(オランダ)

アメリカは横暴で攻撃的な
日本の態度に憤慨して
資源の供給を止めた

１９３８年

日中戦争の長期化により、
1938年4月1日国家総
動員法施行
資源も不足してくるので、
オランダやフランス植民
地の東南アジアへ進出し、
石油やゴムなど資源を奪
う。

１９３９年 ノモンハン事件

満州国を支配していた日本は軍を投入

大規模な戦闘に！

**（5月から9月にノモンハン
というモンゴル東部の中
国との国境の近くに
ある町で起こった軍事衝
突事件。
満州国とモンゴルの警備
隊の交戦がきっかけ
９月16日に日本とソ連の
停戦協定が結ばれる）**

モンゴルと相互援助協定を
結んでいたソ連が軍を投入

独ソ不可侵条約

第二次世界大戦
勃発

英仏、ドイツに宣戦布告

独ソ友好条約

１９４０年日独伊三国同盟

１９４０年

ドイツ軍がソ連に奇襲攻撃

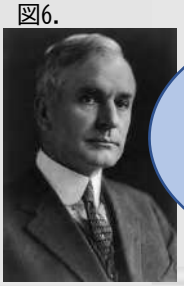
アメリカ政府が
日本への石油輸出を全面禁止

１９４１年１１月26日
日米交渉

コーデル・ハルベイ国務長官
との間で日米交渉

日本の交渉に対して、
ハルノート

図6.



日本と中国の和平が成立したら
中国本土にいる軍を2年以内に撤退
させる同じように仏領インドシナも
撤退させる
だから、経済制裁を解除してくれ！

ハルノートの概要
①日本軍の仏領インドシナ
及び中国からの全面撤兵要求
②大陸におけるすべての権益
を放棄
③三国同盟の廃棄

1941年12月1日までに交渉が
成立しなかったら開戦すると
御前会議で決定

図7.

１２月8日未明 真珠湾攻撃

山本五十六によって提案
されたハワイの真珠湾への
奇襲作戦が実行
この奇襲攻撃は宣戦布告が
なかったためアメリカに大打撃
を与えた

真珠湾攻撃と共にマレー半島にも
侵攻

日本が第二次世界大
戦に参戦

太平洋戦争勃発

ドイツとイタリアも
アメリカに宣戦布告

１９４２年

日独伊軍事協定、ベルリンで調印

１９４２年

ソ連軍前線戦にわたってドイツ軍に反撃開始

第一次パターン半島攻撃開始
ジャワ沖海戦
バリ島沖海戦
第二次パターン半島攻撃開始
セイロン島沖海戦
珊瑚海海戦
ミッドウェー海戦
第一次ソロモン海戦
第二次ソロモン海戦
サボ島沖夜戦
南太平洋海戦
第三次ソロモン海戦
ルンガ沖海戦

ミッドウェー島は
アメリカ軍の航空基地がおかれていた日本軍は山本五十六の作戦によってミッドウェー島を占領し、足掛かりとしてアメリカの太平洋艦隊の根拠地のオアフ島を占領するつもりだったが
１９４５年6月5日に出撃した空母4隻がすべて沈められてしまい、日本の敗戦の兆しがはっきりするきっかけとなる。

１９４３年

イタリア無条件降伏

ブーゲンビル島沖海戦

ルーズベルト(米)、
チャーチル(英)、
蔣介石(中)によるカイロ会談
対日戦の協力について協議、
日本の領土問題について連合国の基本方針を決め、
カイロ宣言として発表

１９４３年朝鮮に徴兵制を敷く

概要
①日本国に対する将来の軍事行動を協定した
②野蛮な敵には仮借のない圧力を加えること
③日本の侵略を制止し、処罰するが3国とも領土拡張の意図はないこと
④第一次世界大戦後に日本が奪取、占領した太平洋における島の剝奪
満州、台湾、澎湖列島などの中華民国への返還。
日本が略取したすべての地域からの日本の駆逐
⑤朝鮮を解放、独立させる決意を有すること
⑥以上の目的で3国は日本の無条件降伏まで
日本と交戦中の他の諸国と協力して長期間の行動を続行すること
日本の領土問題についての方針などはポツダム宣言に取り入れられた

１９４４年

マリアナ沖海戦

サイパン島の日本軍守備隊玉砕

サイパン島をはじめとするマリアナ諸島は当時、日本の国際連盟委任統治領で事実上の日本の領土だった。
アメリカ軍が上陸してきたとき、東京の大本営では必ず撃退できると自信を持っていたが、上陸前のアメリカ軍による連続空襲でほとんどの航空部隊と砲兵陣地が破壊された日本軍が勝てる見込みはなかった。
日本守備軍はアメリカ軍上陸から一か月足らずで玉砕し、８００人を超える民間人も自決した。
日本軍は追い詰められて北端へたどり着いた。
日本軍は投降を固く禁じていたため最後の玉砕攻撃に出た。

神風特攻隊が初出撃

神風特攻隊とは…日本人パイロットたちが天皇の名のもとで死ぬことを覚悟し、飛行機ごと敵に突っ込んでいくという、日本の戦略のために編成された爆装航空機による体当たり攻撃部隊のこと。
主に10代や20代の若者が犠牲になった。
成功率はわずか１０パーセントといわれいるが、連合軍の船を50隻ほど沈めた。

十．十空襲（アメリカ軍による沖縄の空襲）

1994年10月10日南西諸島は米機動部隊の猛烈な空襲を受けた。
攻撃は五回にわたって行われ、那覇市をはじめとした各地の飛行場や港湾施設に大きな損害を与えた那覇市内は90パーセントが消失した。

図8.　１０．１０空襲で焼けてしまった沖縄の様子

東京が初空襲

１９４５年

硫黄島玉砕

1月アウシュビッツ収容所解放

2月4日から11日
ルーズベルト、チャーチル、
スターリンによるヤルタ会談

3月10日東京大空襲

3月13日大阪大空襲

4月1日沖縄戦

4月1日米軍が沖縄に上陸

ムッソリーニ処刑

ヒトラーが自決

5月7日ドイツの無条件降伏

5月29日横浜大空襲

6月19日福岡大空襲

6月23日沖縄戦での
組織的な戦闘の終了

7月10日仙台大空襲

7月17日から8月2日
トルーマン、チャーチル、
スターリン
によるポツダム会談

ドイツの戦後処理、対枢軸国和平調停の方式を討議
日本の降伏要件、日本の戦後管理方針を決定する

１９４５年

７月26日
米、英、中は
ポツダム宣言を発表した

８月6日
広島に原子爆弾投下

８月9日
長崎に原子爆弾投下

８月9日
ソ連対日参戦

８月１５日

ポツダム宣言受諾
玉音放送
日本無条件降伏
第二次世界大戦終了
太平洋戦争終了

８月15日日本が無条件降伏

図9.
日本国民が玉音放送を聞く様子

図10.

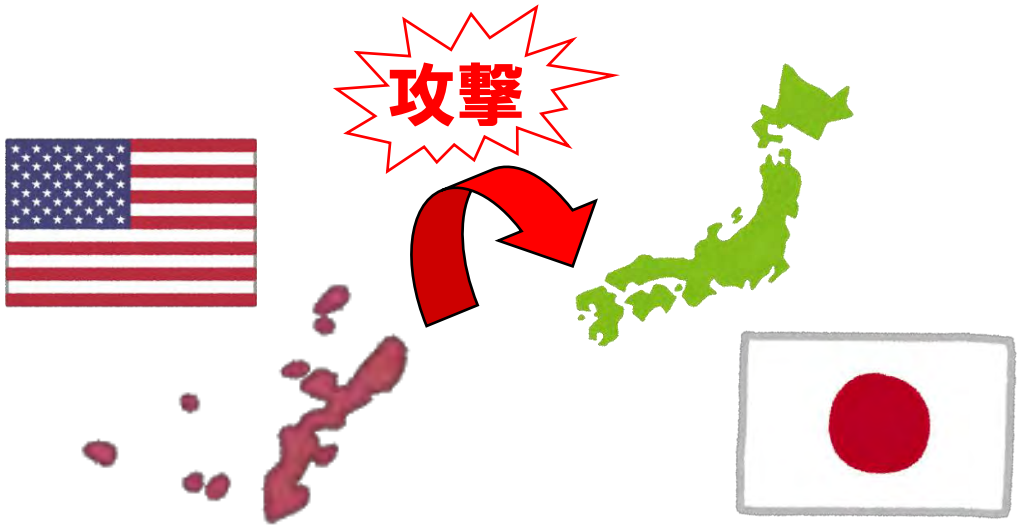
9月2日アメリカの戦艦
であるミズーリ号で
降伏文書に調印
↓
正式に日本の戦争
は終わった

～沖縄戦の流れ～

〈なぜ沖縄が狙われたのか？〉

米軍は**日本本土攻略のため沖縄県を軍事拠点とすべく**、占領しようと考えた。日本軍の海上・空域の往来の阻止や本土戦になった際の補給の拠点とすることを目的とした。これを**アイスバーグ作戦**という。

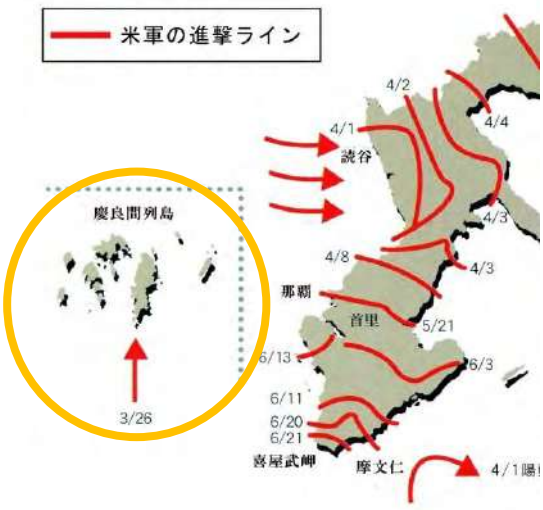
また当時の沖縄には、日本軍が有する中飛行場、北飛行場、大飛行場があった。米軍にはその飛行場を占拠し、日本本土への空襲を行いやすくするという思惑もあった。



◎１９４５年３月２６日　慶良間諸島（けらましょとう）上陸

米軍はまず、沖縄本島を攻略するための補給基地を確保するために、1945年3月26日沖縄本島の南西に位置する**慶良間諸島に上陸**した。

日本軍は沖縄本島に上陸した米軍を慶良間諸島から奇襲をかける作戦をたてていた。しかし米軍は日本軍の予想に反して沖縄本島の前に慶良間諸島に上陸してきたので、十分な戦闘準備をしておらず、**3月31日、米軍に慶良間諸島全島を制圧された。**



出典：沖縄県平和祈念資料館HP

〈なぜ最初に慶良間諸島が狙われたのか？〉

慶良間諸島は沖縄本島から程よい位置にあり、戦艦が停泊するに好都合な広い海もあった。

米軍はここに**軍事基地を設け、この後の沖縄本島制圧における拠点とした。**

→**アイスバーグ作戦**と同じ！

◎１９４５年４月１日　沖縄本島上陸

図11.

米軍は沖縄本島上陸に先立ち艦砲射撃28,000発、3,000機以上の爆撃機で攻撃をした。そして**1945年4月1日、米軍は沖縄本島中部西海岸（北谷村（ちゃたんそん）、読谷村（よみたんそん））に上陸した。**

これまでの日本軍は敵が上陸する際に激しい抵抗をする水際作戦を決行していた。しかし、沖縄本島への上陸の際にはほとんど抵抗をせず、米軍は一滴の血を流すことなく上陸を果たした。これを**無血上陸**という。「まるでピクニックのようだ」という米軍の証言も残っている。

米軍は上陸後すぐに北飛行場（読谷飛行場）と中飛行場（嘉手納飛行場）を占領した。

図12.

図13.

米軍の無血上陸の様子

〈沖縄戦における日本軍の方針〉

なぜ日本軍は米軍に無血上陸を許したのか。それは日本政府にとって沖縄戦は本土決戦に備えるための、**時間稼ぎの持久戦**であったからである。

沖縄戦はあくまで**日本本土での最終決戦の準備の時間を稼ぐことが第一の目的**であり、そのために沖縄戦では消耗の激しい水際作戦は行わず、兵力を陣地に温存して時間を稼ぎ、敵を迎え撃つ作戦をとった。

沖縄にいる日本軍は兵力不足に悩まされたが、米軍に勝利することが目的ではないので兵力の増援などはなかった。このことから沖縄戦はよく本土決戦のための**「捨て石作戦」**と形容される。

◎進む米軍の攻撃

北飛行場（読谷飛行場）と中飛行場（嘉手納飛行場）を占領した米軍は沖縄本島を南北に分担し、**北部に侵攻する部隊と南部に侵攻する部隊に分かれてそれぞれ侵攻していった。**

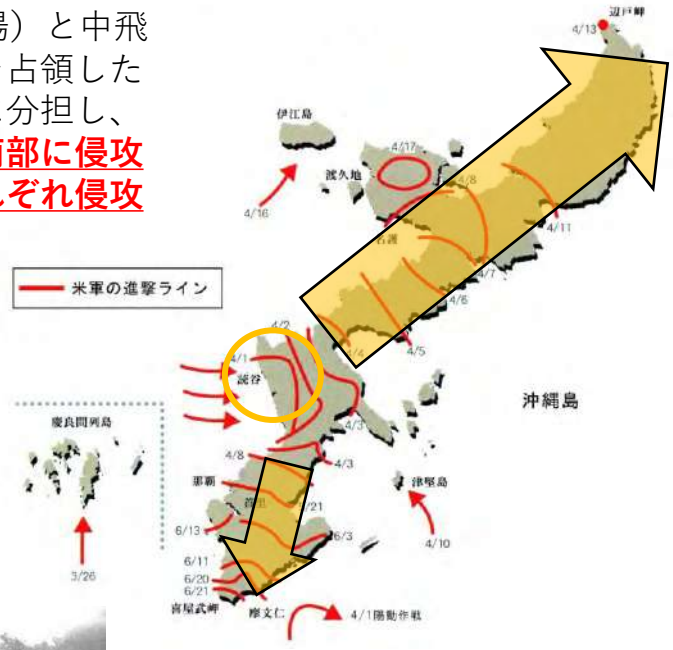


図14. 侵攻する米軍の戦車

◎１９４５年４月１日～２０日　本島北部の戦い

日本軍は南部を主戦地と決めていたので、本島北部には**本部半島（もとぶはんとう）の国頭支援（宇土部隊）を除けば日本軍の主力は配置されていなかった。**米軍は上陸してわずか 2 週間、4月13日までに辺戸岬に達し、4月20日ごろ本部半島を制圧した。

北部では、恩納岳、八重岳などの高地を中心にしてゲリラ戦が展開された。本島北部は、一般住民の疎開地域に指定されいたこともあり、**多くの住民も戦闘に巻き込まれた。**

◎１９４５年４月１６日～２１日　伊江島での激闘

また北部にある伊江島は当時、東洋一と言われた飛行場を有していたこともあり、米軍の主要な攻撃目標とされ激戦が繰り広げられ、21日には完全に占領された。

4月16～21日にわたる戦闘で、一般住民約1500名を含む4700名余が犠牲となった。

図15. **米軍の攻撃を受ける伊江島**

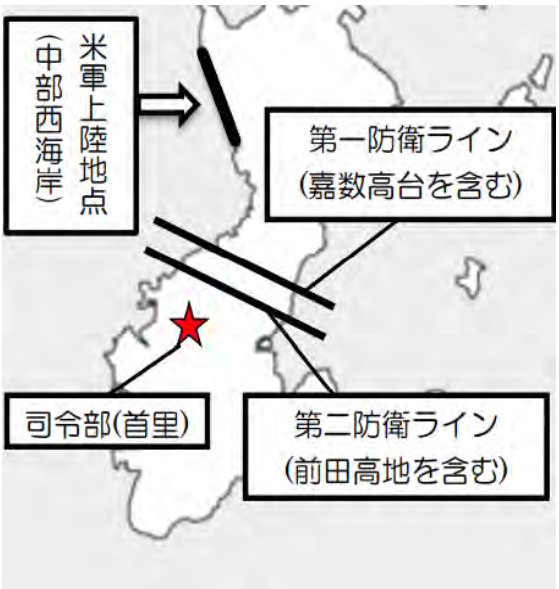
◎中部戦線

沖縄の日本軍（第 32 軍）は**首里城の地下に軍の司令部を置いていた。**司令部を守るために日本軍は地形的に有利な丘に防衛線を張りアメリカ軍に抗戦した。

嘉数高台や**前田高地**などの高台を中心に 2 本の防衛ラインを引き、侵攻してくる米軍を迎え撃った。そのため中部では米軍戦史にも残るほどの激戦が繰り返され、日本軍、米軍に多大な被害がでた。

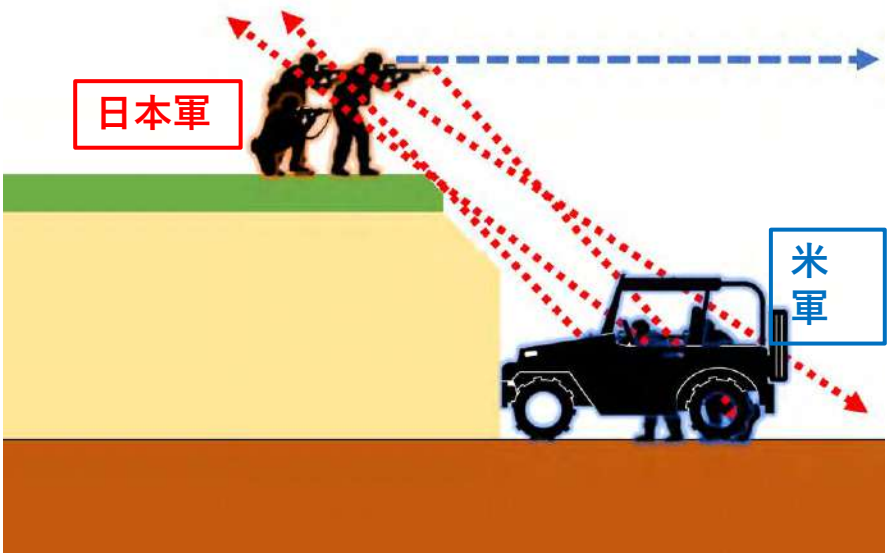
戦車、火炎放射器など圧倒的な火力を駆使した物量作戦をとる米軍に対して、日本軍は夜間の切り込みや、爆弾を抱えて戦車に突っ込むなどという**肉弾戦法**を駆使して戦った。

日本軍と米軍にはもともと圧倒的な戦力の差があったが、日本軍は高台の利点を最大限に利用して必死の抵抗を見せた。



〈なぜ地形的に丘が有利なのか〉

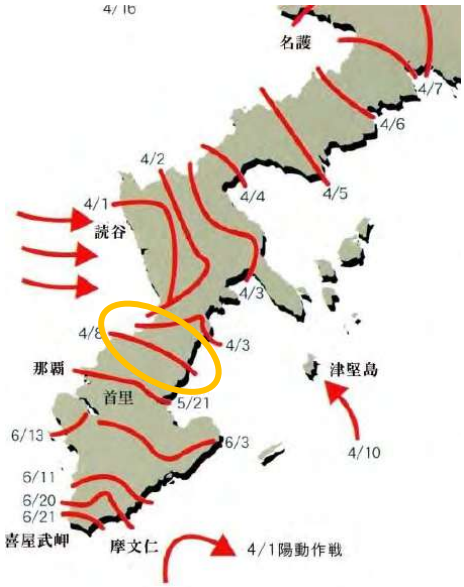
日本軍が高台から米軍への攻撃を行ったのは、**米軍攻撃の正面には険しい断崖がある**うえ、頂上まで**上りつめた米軍に日本軍が猛烈な攻撃を帯びせることができる反射面戦法という戦法をとった**ためである。したがって日本軍は地形的に有利な丘からの攻撃を行った。



◎１９４５年４月８日～　嘉数高台の戦い

嘉数高台での戦いでは米軍戦車を 1 日で 30 両中 22 両破壊するという日もあり、米軍は「死の罠」「忌々しい丘」などと称した。**米軍戦史においても「この戦闘ほど日本軍に悩まされたことはなかった」と記録している。**４月８日から１６日間一進一退の死闘が続いた。

嘉数集落の人々もこの戦闘に巻き込まれ、**住民 695 名中 374 名（53.8%）が戦死し、162 戸中 54 戸（33.3%）が一家全滅した。**



◎１９４５年４月２５日～　前田高地の戦い

前田高地での戦いでは、高地の傾斜が急すぎて米軍は戦車を使うことができず、爆弾を投げ合う、**刀で斬り合うなど一進一退の白兵戦が繰り広げられる**こととなった。

日本軍はこの激しい戦闘から前田高地のことを**「魔の高地」**と呼び、米軍も**「サタンヒル（悪魔の丘）」**と呼んだ。

この前田高地の戦いまでで**両軍の戦死者は日本軍が約26000 人、米軍が約 2500 人となった。前田集落で巻き込まれた住民の犠牲者は 771 名中 457 （59.2%）、一家全滅は 203 戸中 41 戸（22.2%）だった。**

図16. 嘉数高台付近へ進撃準備中の米軍戦車

図17. 現在の前田高地

◎１９４５年５月４日　日本軍が総攻撃を開始

沖縄の日本軍（第 32 軍）の司令部は首里城の地下に築かれており（司令部壕の建築には住民や学徒も動員された）、そこで今後の戦いをどう進めていくかの会議が連日行われていた。

司令部壕の中には第 32軍司令官である**牛島満中将**（うしじまみつる）、参謀長である**長勇中将**（ちょういさむ）、その下で実際に作戦を練った高級参謀の**八原博通大佐**（やはらひろみち）らがいた。長勇参謀長官は好戦的な性格で、軍の戦力が残っているうちに攻撃にでるべきだと主張したが、八原高級参謀は沖縄戦の時間稼ぎという位置づけを優先し、あくまで持久戦をとるべきだと主張。両者の意見が割れ、何度も司令部壕の中で会議が繰り返された。

その結果、長参謀長官が八原高級参謀を涙ながらに説得し、**5 月 4日に戦力を集中しての総攻撃にでることとなった。**結果、この総攻撃は米軍に返り討ちにされ、**日本軍は戦力の 75％を失うという大ダメージを負った。**

この総攻撃の結果をみて、牛島司令官は自らの判断ミスを認め、これからは八原高級参謀の指示に従うということを告げた。

図18.

図19.

図20.

図21. **壕の入り口に向けられた火炎放射器**

図22. **ダイナマイトで日本軍洞窟壕を爆破**

◎１９４５年５月２２日　司令部「南部撤退」を決定

日本軍は司令部を守るため懸命に戦い、抵抗を続けたが、総攻撃で戦力のほとんどを失った。

そして 5 月 22 日、とうとう司令部がある首里城の目前まで米軍が侵攻してきた時、司令部壕の中である作戦が話し合われていた。その作戦が**「南部撤退」**である。
様々な案が話し合われるが、結果的に喜屋武半島（きゃんはんとう）の**摩文仁（まぶに）への撤退を決定した。**

◎１９４５年５月２９日　南部への撤退を開始

司令部は喜屋武半島の**摩文仁への撤退を決定**し、5 月 29 日から南部への撤退が開始されていった。

日本軍は南部に新しく陣地や病院を構えようとしたが、南部にあるガマや壕の中にはもともと避難していた住民がいた。そこで、**日本軍は住民を壕の中から追い出し**、新しく陣地などを構えた。また、沖縄の住民は日本軍が自分たちを米軍から守ってくれると信じていたので、日本軍と一緒に南部に避難した住民も少なくなかった。その結果、南部一帯は軍と住民が雑居する状態となり、**「鉄の暴風」と呼ばれる「艦砲射撃」**や、壕の入口をふさいで中を攻撃する**「馬乗り攻撃」**などの米軍による無差別攻撃によって多くの住民が戦闘に巻き込まれた。

沖縄戦における日本軍の敗戦は、首里からの南部撤退決定前にすでに明らかだった。しかし、日本軍の“あくまで沖縄戦は時間稼ぎの捨て石作戦だ”という位置づけから、南部撤退を決行した。その結果、日本軍にとってもアメリカにとっても、そして何より住民にとっても被害が大きくなってしまった。

もし南部撤退をせず、首里で降伏していれば 10 万人以上の被害を防ぐことができたと言われている。

図23. **沖縄島への艦砲射撃**

図24. **馬乗り攻撃の様子**

◎１９４５年６月２３日　組織的戦闘の終了

南部撤退後、南部の方でも戦闘が行われたが日本軍にはほとんど抵抗する力はなく、日本軍も住民もどんどん沖縄本島最南端である摩文仁に追い詰められていった。そして逃げ場を失った人たちは摩文仁の崖から自ら飛び降り、命を断っていった。この摩文仁の崖は米軍から**「スーサイドクリフ（自殺の崖）」**と呼ばれた。

そのような状況の中、**6月23日、牛島満司令官と長勇参謀長が自決をした。**司令官と参謀長という軍に命令を出す者がいなくなったため、沖縄戦における日本軍の**組織的戦闘は終了した。**

図25. 射殺した住民が死んでいるか確認する米兵

図26. 牛島満軍司令官と長勇参謀長が自決した摩文仁岳中腹の司令部壕

◎終わりなき戦い

牛島満司令官らは自決の前に部下に対して「最後まで敢闘し、悠久の大義に生くべし」…つまり最後の一兵まで戦えと命じた。これにより終わりなき沖縄戦が生み出された。以後、日本軍の敗残兵らは米軍に対し抵抗を続けた。

～命令書～

親愛なる諸子よ、諸子の勇武戦敢闘実に3ヶ月、すでにその任務を完遂せり。
諸子の忠誠勇武は燦として後世を照らさん。
今や戦線錯綜し、通信も又途絶えし、余の指揮は不可能となれり。
爾今諸子は各々その陣地に拠り、所在上級者の指揮に従い、祖国のため最後まで敢闘し、生きて虜囚の辱めを受くることなく、悠久の大義に生くべし。

◎ １９４５年６月２４日　米軍による掃討戦開始

身を守るのには地下壕やガマと呼ばれる洞窟に逃げ込むしかなかった。地下壕とガマは現在、南部の糸満市で確認されているだけでも２４０か所。そのうち９２か所は軍が作戦に使っていたため、住民は残りの地下壕やガマに避難場所を求めた。アメリカ軍の南下にともなって身を隠す場所はさらに限られていく中で、住民を地下壕から追い出そうとする日本兵もいた。

図21.

図22.

〈掃討作戦とは〉

海からも南部を包囲し艦砲射撃を浴びせたり、１つ１つの壕を周り、無差別に攻撃する作戦。住民、日本兵に関係なく犠牲者が急激に拡大していった。

図23.
洞窟に向け火炎を放射する米軍戦車

図24.
日本軍のトラックを破壊する米軍

◎捕虜になったその先に

米軍は、投降した人々を軍人と民間人に分け、軍人は捕虜収容所に、民間人は難民収容所（県内１２カ所）に送った。

収容所に送られてくる人は、戦闘を体験していない人、北部で餓死寸前で救出された人、南部の戦場で砲爆撃の嵐をかいくぐってかろうじて生き延びた人など様々だった。身着のままで収容され、収容後もマラリアや栄養失調などで亡くなる人が絶えなかった。

就労可能な人たちは軍作業に従事し、食糧を報酬としてもらっていた。そこで働いていた人の年齢は10代～80代と幅広かった。

図25.
収容所の様子

図26.
軍作業の様子

◎ １９４５年７月２日　米軍　沖縄戦終了宣言

7月2日、アメリカ軍は沖縄占領を目的とした**アイスバーグ作戦の終了**を宣言。次の**攻撃の標的を日本本土に**定める。

◎ １９４５年８月１５日　玉音放送

1945年8月15日、昭和天皇が**玉音（ぎょくおん）放送で無条件降伏**を求めた「ポツダム宣言」受諾の証書を読み上げたことで戦争が終結したとされる。
当時の沖縄の住民は、収容所に入るか、または投降しないで潜伏するかだったので、ラジオで聞くことは難しかった県民の多くは玉音放送の存在すら知らず、放送を聞けた人はごくわずかだった。

図27.

◎ １９４５年９月７日　降伏調印式

図28.

ごえくそんもりね
越来村森根（現在の嘉手納飛行場内）の米第１０軍司令部前の広場において、南西諸島の日本軍が降伏する沖縄戦の正式な降伏調印式がおこなわれた。司令部前の広場には戦車などが並び、上空にはいくつもの軍用機が飛び交い、降伏を祝していた。そして米陸軍音楽隊が南北戦争時代の陽気な行進曲を演奏するなど、米軍の「圧勝」を十分に印象付けた後、納見敏郎中将以下３人の将軍が降伏文書に署名、その後スティルウェル大将が署名した。

戦後

獲得目標

・組合員が多角的・多面的にみることを通じて
今まで自分が持っていなかった視点に気付く。
・組合員が今社会で起きていることに対して
自分なりの意見を持つ。

◆今も残るミックス文化(アメラジアン)
◆クリアゾーン
◆辺野古移設問題
◆米軍の犯罪
◆日米地位協定

沖縄の歴史

• 戦後の日本と沖縄の状況

まずは戦後の日本をおさらいしてみましょう。日本は1945年8月14日にポツダム宣言を受諾し、連合国に降伏しました。太平洋戦争終結後は、GHQが日本の統治を始めていきました。一方沖縄では、6月23日に組織的戦闘は終了したものの、公式には終結してはおらず、1945年9月7日の降伏文書調印により、正式に戦闘が終了し米軍の統治下となりました。沖縄の戦後はここから始まりました。同じ日本でも、本土と沖縄で戦後のスタートが異なっています。さらに沖縄にある基地は、戦後に建設されたものではありません。これらは沖縄で地上戦が開始されてから同時にアメリカ軍によって建設が始められたのです。基地に必要な土地を確保する為に、捕虜だけでなく住民も収容所へ移動させ、住民から取り上げた土地に米軍基地を建設していきました。

図29

降伏文書調印式の様子

図30

普天間基地造成中の様子

沖縄の戦後の歴史

米軍の
統治下

1945年6月23日
沖縄での地上戦の組織的終了

同年8月14日
日本、ポツダム宣言受諾

同年9月7日
降伏文書調印
➡この時に**沖縄での地上戦が正式に終了**、同時に米軍による統治開始

図31

日本は沖縄を残したまま国際社会復帰

米軍基地への反対運動激化の時代

•1950～60年代

1952年　日本主権回復

➡**しかし沖縄はそのまま米軍施政。**

本土にあった基地は、地元住民からの反対運動などにより、撤去されました。この時の東アジアは、米ソ冷戦の前線であったので、**本土から撤退した基地が、重要拠点である沖縄に集中するようになりました**(多くの米兵、武器、兵器が沖縄に投入される)

➡それにより沖縄で米軍関係者による事件事故が多発するようになり、沖縄では本土復帰運動が展開されるようになりました。

•1970年代以降

1972年5月15日　沖縄本土復帰

➡復帰後の沖縄では、日本に復帰する事で米軍基地は縮小すると思われていました。しかし、その思いは実現することはありませんでした。それだけには留まらず、米軍による事件・事故も止むことはありませんでした。

1995年沖縄少女暴行事件

この事件をきっかけに長年積もった県民の怒りが爆発し、反基地運動が熱を帯びて展開されていきました。

• 沖縄の現在

1995年の事件を受けて、基地問題についての日米合同の協議会「SACO」が発足しました。これの最終報告により土地返還や騒音軽減、地位協定の改善などが約束されました。しかし最終報告から20年になった現在でも全てが達成されておらず、県民は未だに事件・事故に悩まされているのが沖縄の現状です。

図32

写真：沖縄本土復帰後の様子

図33

写真：米兵少女暴行事件への講義集会

今も残る**ミックス文化**

沖縄には今も米国との
ミックス文化が色濃く残る。
A&Wや**BLUE SEAL**などの食文化、
北谷・**アメリカンビレッジ**などの生活文化、
米軍が駐屯していることもあり
一見、日本とは思えないような
景観も残っている。
その中でも、特に取り上げたいのが
「**アメラジアン**」の存在である。
米軍との深いかかわりが
健著に表れる存在であると考える

アメラジアンってなに？

アメリカ人(American)とアジア人(Asian)の間に
産まれた子どものことで、
米軍基地があるアジア諸国に
存在する。

沖縄との関係は？

アメラジアンの子どもたちは
しばしば差別の対象とされた。
国公立学校に通わせることで、
「**基地の落とし子**」として
差別される可能性は高く、
フリースクールには
親の経済的負担や学歴の無保証などがあった。
そのため、5人の母親が立ち上がり、
アメラジアンスクールが設立された。
ここでは、英語日本語の
2言語での学習が行われている。

スクールでの**学び**

スクールでは、**2つの言語・文化**の
どちらかを選択させるのではなく、
どちらも与えるという方針で学んでいる。
例えば、第二次世界大戦について学ぶ時、
日本では、日本視点の学びしかしない。
日本軍の戦い方や終戦までの流れ
日本からの目線で完結していく。
しかし、スクールでは、
米国視点でも学ぶのである。
戦い方、終戦、何を考えたのかまで。
校内においてある
書籍類も日本語・英語の二か国語分ある。

図34.

図35.

ミックス文化の**メリット**

米軍がいることで生まれたミックス文化も
必ずしも悪いことばかりではない。
例えば、観光地として栄える
北谷アメリカンビレッジでは、
ハロウィンイベントが、
基地内ではフリーマーケットが催される。
こういった
沖縄ならではの**楽しみ方**が出来るのも、
米軍ありきの魅力の一つとなっている
と言っても過言ではない。

米軍と暮らす

街中やビーチ、ショッピングモールなどで
日頃から見かけることもあり、
米軍の存在が近く感じられる沖縄では
学生と**米軍**の交流を図るイベントも
多数行われている。
イベントがなくても、
バーで一緒に飲んだり、話をしたりもする。
これは沖縄ならではの**経験**ではないか。
普段の生活に米軍がいるということで
県外で暮らすよりも多くのことを考えられる
機会を得られると考える。

図36.

観光としてのミックス文化

沖縄県の主な収入として
大きな割合を持っているのは**観光**である。
その観光業を盛り上げるために欠かせないのが
ミックス文化もとい**ちゃんぷるー文化**である。
沖縄の文化は様々な地域の文化を
融合させたもので、
それをブランドとして確立させている。
アメリカ文化を色濃く残す
コザや北谷などは観光地としても有名で
今後の観光の発展に重要な地域となっている。

クリアゾーン

◎クリアゾーンとは

米連邦航空法に基づいて米軍が作成した基準（ＡＩＣＵＺ海軍作戦本部長指示）で設定され、かつ環境レビューに「**事故の可能性が高く、土地利用に制限がある地域**」と規定させている滑走路の端から幅450mから600m、長さ600mの台形型の区域のこと。

同基準の前提となった調査によると、重大事故の75％は滑走路やその延長線上で発生するため、**米国ではクリアゾーン内での居住や経済活動が全面的に禁止されています**。

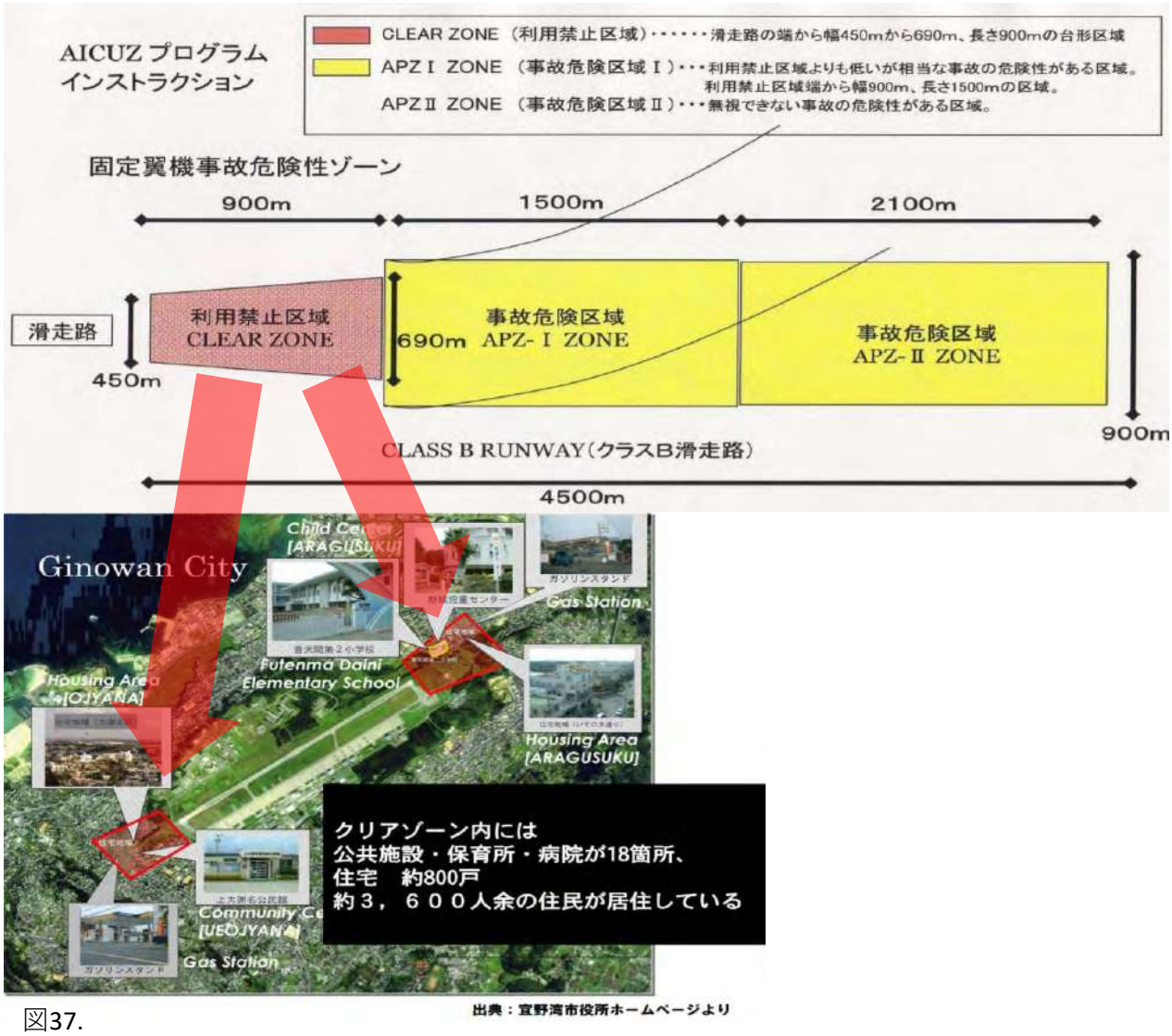


図37.

出典：宜野湾市役所ホームページより

◎クリアゾーンの問題

私たち人間が、日中生活する中で、一般的に**ストレスを感じずに暮らせるのが50デシベル**と言われています。睡眠に関しては、個人差はありますが**40デシベル以下でないと眠りにつけず、ストレスを抱えてしまう**こともあるようです。

しかし、なんとこのクリアゾーン内ではその約2倍に値する**80～100デシベル**の騒音が響き渡ることがあります。そのため、クリアゾーンでは特に騒音による被害が深刻な問題です。

騒音レベル[dB]		音の大きさのめやす	
極めてうるさい	140	ジェットエンジンの近く	聴覚機能に異常をきたす
	130	肉体的な苦痛を感じる限界	
	120	飛行機のプロペラエンジンの直前・近くの雷鳴	
	110	ヘリコプターの近く・自動車のクラクションの直前	
	100	電車が通る時のガード下・自動車のクラクション	
	90	大声・犬の鳴き声・大声による独唱・騒々しい工場内	極めてうるさい
	80	地下鉄の車内（窓を開けたとき）・ピアノの音　聴力障害の限界	
うるさい	70	掃除機・騒々しい街頭・キータイプの音	うるさい
	60	普通の会話・チャイム・時速40キロで走る自動車の内部	
普通	50	エアコンの室外機・静かな事務所	日常生活で望ましい範囲
	40	静かな住宅地・深夜の市内・図書館	
静か	30	ささやき声・深夜の郊外	静か
	20	ささやき・木の葉のふれあう音	

図38.

図39.

騒音が人間の心身に及ぼす４つの悪影響は以下の通りです。

①**生理的影響**…主に聴力障害と睡眠障害の発症。さらにそれらの症状が悪化することで心筋梗塞の発症リスクが高まります。

②**心理的影響**…何となくイライラして、落ち着かない。こうした精神不安定の状態は特に睡眠障害につながりやすいと言われています。

③**活動的妨害**…騒音が聞こえると、勉強や仕事などが強制中断させられるため、人びとは作業のやる気が大変失われやすいです。

④**社会的影響**…騒音被害があることによってその土地の資産価値が下がるので経済的不安定という被害も存在します。

◎クリアゾーンの経緯

　では、一体なぜこんなにも多くの危険が伴う区域にも関わらず住民たちはクリアゾーン内での生活を送っているのでしょうか。

　それは、ズバリ**普天間飛行場はそもそも沖縄戦中に、住民を収容所に強制収容している間に、米軍が地主の意思を完全に無視して、強奪的につくらた飛行場**だからです。普通ならこんなことあり得ませんよね。沖縄には先祖代々から引き継がれる独自の形をしたお墓があり、そのお墓が今でも基地内にあることが確認できます。生まれ育った故郷や祖先の墓から離れることはそう簡単なことではありません。周辺住民がクリアゾーンにも関わらず、そこにこだわって住む理由の裏側には、「**自分の故郷から離れたくない**」という純粋な気持ちがあるのです。

　しかし、これに対して**アメリカ政府**はあくまでも普天間飛行場の建設やクリアゾーンの設置は、**日米安保条約にのっとり、日本の平和を守る**ためであるという意見を主張し、なかなかクリアゾーン内の住民の声に耳を傾けてくることはありません。

　日本政府も国会でクリアゾーンにおける問題について言及されても、これは**米国内の基準であり、日本では適応されない**と逃げてきましたが、2000年に日米で同意した環境管理基準では日米どちらかの厳しい基準を在日米軍基地に適応するため、矛盾が生じている状況です。

図40.

図41.

※左写真　基地内に昔ながらの沖縄のお墓があることが分かる。

　右写真　米軍の許可を得て、年に1度お墓詣りをする地元住民の様子。

◎まとめ

日本国民や周辺住民の安全や平和を保障することが目的の基地やクリアゾーンですが、実際、ほんとうにその役割が果たせているとは考えられません。こうした問題を直接的に抱えているのは沖縄県や宜野湾市の方々ですが、他人事にとらえてはいけません。同じ日本という国で起こり、今この瞬間も起こっている問題だからです。もし、自分がクリアゾーン内の住人だとしたら何を思うでしょうか。沖縄・日本・アメリカは、クリアゾーンについてそれぞれがそれぞれの立場を表明していますが、皆さんは、一体どのように考えますか。

辺野古移設への流れ

- ◆普天間飛行場移設問題の主な出来事
- 1995年 米軍による少女暴行事件発生、大規模な総決起大会が開かれる。
- 1996年12月 SACO 合意によって普天間飛行場の返還が決定。
- 9月 橋本首相が「撤去可能な海上ヘリポート案」発表、
- キャンプ・シュワブ沖（辺野古地区）が候補地となる。
- 1997年12月 名護市民投票実施。条件付きを含む移設反対票が過半数を占める。
- 12月 比嘉鉄也名護市長が「海上ヘリポート案」を受け入れ、辞任。
- 1998年02月 移設容認派の岸本健男氏が名護市長選で当選。
- 11月 「軍民共用、15 年間期限付きの飛行場案」を公約とする
- 移設容認派の稲嶺恵一氏が沖縄県知事に当選。
- 1999年11月 稲嶺知事が移設先を「名護市辺野古」に正式に決定。
- 12月 岸本市長が普天間飛行場受け入れを表明。
- 2000年8月 「代替施設協議会」発足。
- 2001年4月 小泉純一郎内閣が発足。8つの代替施設案を提示。
- 12月 「辺野古沖リーフ上案」で合意。
- 2001年9月 「9.11米中枢同時テロ事件」発生。
- ブッシュ政権、「米軍再編」を実施。
- 2002年7月 代替施設協議会にて移設基本計画が決定。
- 環境アセスメントへ向けた準備始まる。
- 2004年4月 辺野古沖のボーリング調査を延期する。辺野古の座り込み開始。
- 08月 沖縄国際大学に普天間飛行場所属の大型ヘリが墜落。
- 2004年~ 「米軍再編」により「SACO 最終報告」の見直しが始まる。
- 2005年10月 「キャンプ・シュワブ沿岸(L 字型滑走路)案」で日米合意。
- 11月 稲嶺知事、「沿岸案」の受け入れを拒否。
- 2006年4月 「V 字型滑走路案」で合意。
- 2006年12月 仲井真弘多が沖縄県知事に当選。
- 2009年8月 民主党へ政権交代。鳩山由紀夫内閣発足。
- 「普天間飛行場県外、国外移設」をマニフェストとした。
- 2010年2月 名護市長に移設反対派の稲嶺進氏が当選。
- 2010年6月 鳩山由紀夫首相「V 字案」を受け入れ辞任。

- 2012年12月 自民党に政権交代。安倍内閣発足。
- 2013年12月 仲井真県知事が安倍首相と対談し、辺野古の埋め立て申請を承認。
- 2014年8月 辺野古沖のボーリング調査開始。
- 2014年12月 辺野古への移設中止を訴える翁長雄志氏が県知事に就任。
- 2015年5月 移設工事を進める政府への抗議のための県民大会開催。
- 2015年8月 政府、辺野古への工事を一か月間全面中止することを発表。
- 政府と沖縄県、一か月間の集中協議へ。
- 2015年10月 翁長知事が、辺野古沿岸埋め立て承認を取り消しとする文書を送付。
- 防衛省は、取り消しの無効化と執行停止を国交省に求める。
- →国交相が埋め立て承認取り消しの効力を無効化し、埋め立て代執行の手続きを行うと決定。
- 2015年11月 政府が沖縄県に埋め立て承認の取り消しを撤回するように求めたが、従わなかったため、政府は撤回するよう求めて裁判所に提訴。
- 2015年12月 埋め立て承認取り消しを一時停止したことは違法であると、
- 沖縄県が政府を訴えた。
- 2016年3月 裁判所の提示した和解案で和解が成立。しかし、意見の対立は続く。
- 2016年4月 元海兵隊員による女性死体遺棄事件発生。
- 2016年7月 移設工事の正当性を問うため、政府が沖縄県を再訴。
- 2016年12月 最高裁判決で沖縄県の敗訴確定。埋め立て工事再開。
- 2017年3月 仲井真知事による「岩礁破砕許可」が失効。
- →政府は、「岩礁破砕許可申請は必要ない」と回答。
- 2017年4月 辺野古で埋め立ての第一段階となる護岸工事が始まる。
- 2017年7月 無許可の岩礁破砕行為の差し止めを求めて県が訴訟を起こす。
- 2017年8月 「翁長知事を支え、辺野古に新基地を造らせない県民大会」開催。
- 2018年7月 翁長知事が前知事の埋め立て承認を撤回する方針を表明。
- 2018年8月 翁長知事死去。
- 2018年8月 「土砂投入を許さない!ジュゴン・サンゴを守り、辺野古新基地

断念を求める8.11県民大会」開催。

・2018年8月 辺野古への土砂投入延期へ

辺野古移設問題について

「どうして移設先が辺野古なのだろうか？」

沖縄にいる米軍は海兵隊という軍隊で、陸上部隊、海上部隊、航空部隊があります。そして、もともと辺野古には海兵隊の陸上部隊が所属しているキャンプ・シュワブと辺野古弾薬庫という米軍基地があり、そこに海兵隊の航空部隊の基地を置くことで、有事が起きた時にも即座に対応できるし、訓練もより効率的に行うことができるためです。

図42.

図43.

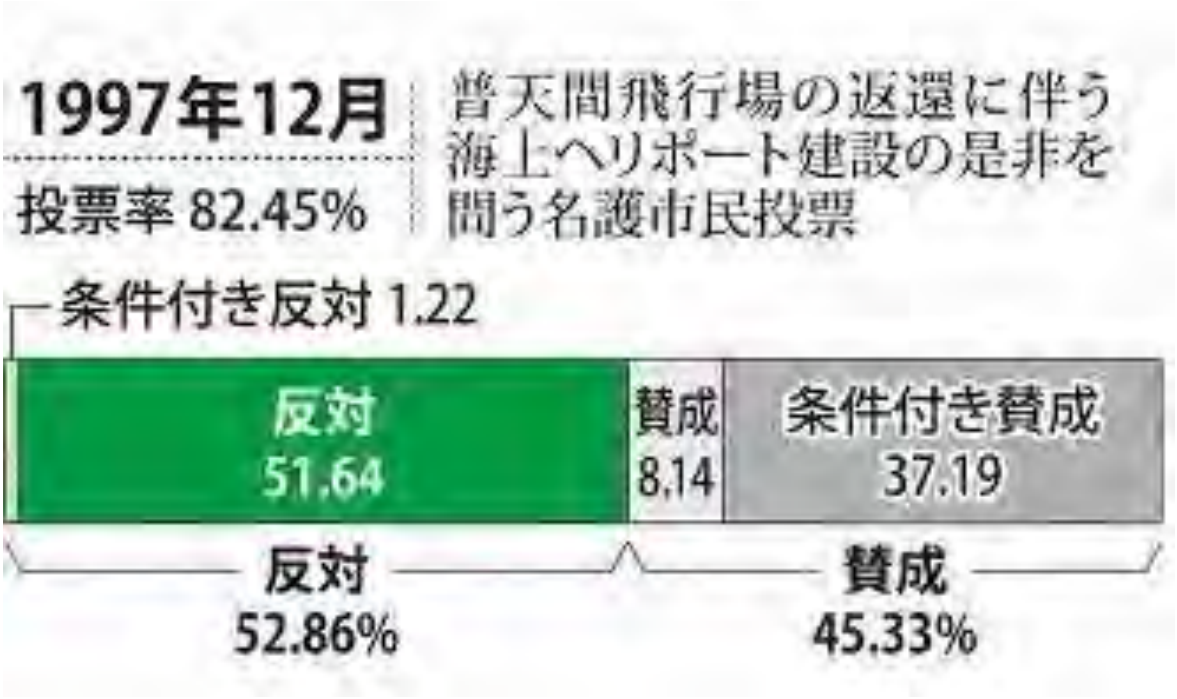
また、沖縄の地理的な位置も大きく関係しています。沖縄は戦争の火種になりかねない国がたくさんある極東アジアの中心に位置しており、その沖縄に海兵隊を置くことで、危険な国への**「抑止力」**になっています。

「辺野古移設案が出た当時の沖縄県民はどのように思っていたのか？」

普天間飛行場の代替施設が名護市辺野古に移設するという案が有力になってきた頃、名護市民（辺野古の属する市）は基地移設を容認する「推進派」と基地移設に反対する「反対派」に二分していました。

当時の名護市は過疎化が進んでおり、子どもを身売りしないと生活が出来ないほど貧しかったので基地を受け入れて、**基地の経済効果や、国からの補助金を使って北部を発展**していこうと考える人もいました。そのほかにも普天間飛行場の問題を沖縄全体の問題として考え、町のど真ん中にあるより**少しでも安全が確保できる場所に移設した方がいい**、と移設を容認している人もいました。

1997 年 12 月 21 日に名護市民投票が行われ、賛成14,267票、反対16,639票で、**反対票が過半数**を占めた。



「県民投票について」

2019年に行われた県民投票は、正式には「辺野古米軍基地建設のための埋め立ての賛否を問う県民投票」といいます。

沖縄県民でも先ほど挙げたように基地がもたらす経済への影響などにより賛成する人たちもいます。この県民投票では、基地による経済などへの影響などは含まず、辺野古に基地を移設すること自体に賛成か反対かを問うための投票です。

反対票が半数を圧倒的に上回る中、国はこの結果を無視し埋め立て工事を今も継続して行っています。これに対して反対の意を訴える人も多く、今も辺野古の移設先のゲート前で座り込みなどの手段で、意思表示を続けています。

埋め立て反対	434,273 票	72.2%
埋め立て賛成	114,933 票	19.1%
どちらでもない	52,682 票	8.8%
合計	601,888 票	

図44.

米軍の犯罪

・沖縄での米軍による事件・事故

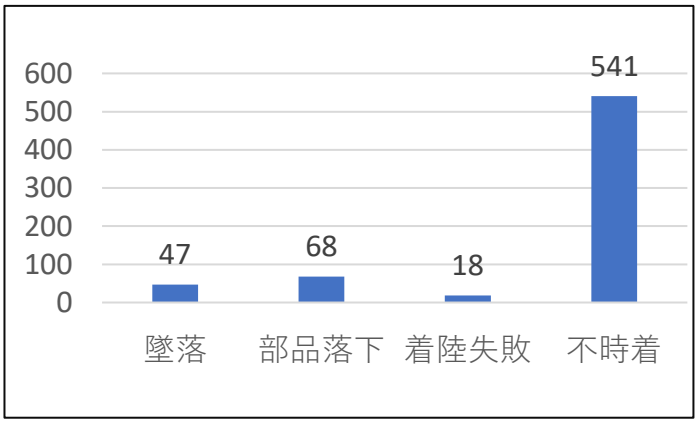
　沖縄県内では、アメリカ軍に所属している兵士、軍属関係者による事件・事故が毎年のように発生しており、県民にとっては基地移設や騒音問題などと同じように、県民をおびやかす悩みの種となっております。その事件・事故は沖縄県が日本に復帰する前から発生しており、本土復帰から40年以上経過した現在でも、残念ながら起こっています。県民の心を踏みにじるような度重なる事件・事故は、どういったものであったのでしょうか。

● **米軍関係の事件・事故件数(1972年～2017年)**

米軍航空機・関連事故 709 件

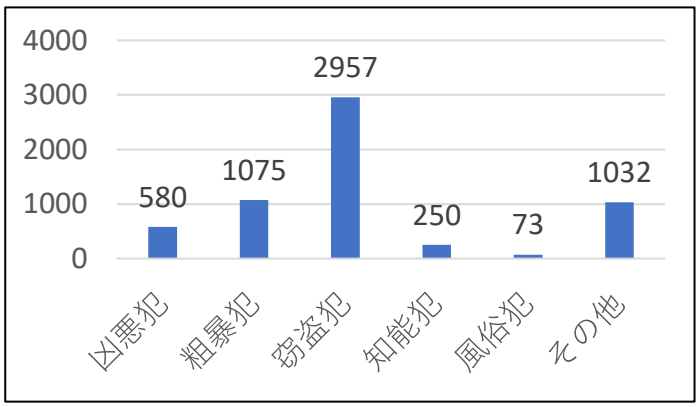
〇墜落 47 件

〇部品落下 68 件
〇着陸失敗 18 件
〇不時着 541 件



米軍人による犯罪件数 5967 件

〇凶悪犯 580 件
〇粗暴犯 1075 件
〇窃盗犯 2957 件
〇知能犯 250 件
〇風俗犯 73 件
〇その他 1032 件



• その実態

右の表をご覧ください。ここには、沖縄で発生した米軍関係者による主な事件が掲載されています。ここでは2つの事件に注目してみたいと思います。

過去の主な米軍人・軍属による凶悪事件（市町村名は当時）

1955.9	嘉手納基地高射砲隊所属の米兵が石川市で幼女を拉致し暴行、殺害
1963.2	演習帰りの米軍トラックが那覇市内で信号無視し、横断歩道の中学生をはねて死亡させる
1963.7	美里村で那覇航空隊所属の上等兵が飲食店従業員の女性を鈍器で撲殺
1966.7	金武村で勤め先の飲食店から帰宅途中の女性を脱走米兵が暴行し殺害
1967.7	米兵が浦添村でタクシー運転手を刺殺
1970.9	糸満町で飲酒運転の米兵が主婦をひき殺す
1972.9	キャンプ・ハンセンで米兵が基地従業員を射殺
1973.3	コザ市で女性が絞殺される。容疑者の米兵は帰国し逃亡
1982.3	金武町内で海兵隊員が男性をブロックで殴殺
1982.8	名護市で海兵隊員が女性を殺害
1983.2	米兵２人がキャンプ・ハンセン内でタクシー運転手を刺殺
1985.1	金武町で就寝中の男性を物取り目的の海兵隊員が刺殺
1991.6	沖縄市で海兵隊員が男性殺害
1991.6	沖縄市で海兵隊員がインド人男性を殺害
1993.4	金武町の繁華街で、海兵隊員が男性を殺害
1993.7	女性に乱暴し、基地内に拘束されていた米兵が脱走、本国に逃亡したことが判明
1995.5	宜野湾市のアパートで海兵隊員が女性を殺害
1995.9	本島北部で３米兵による少女乱暴事件が発生
2001.6	北谷町で嘉手納基地の軍曹が女性を暴行
2003.5	海兵隊上等兵が女性を殴り暴行
2005.7	嘉手納基地の２等軍曹が女児にわいせつ
2008.2	海兵隊員が女子中学生を暴行
2009.11	読谷村で米陸軍兵が男性をひき逃げ。男性は死亡した
2012.8	海兵隊伍長が那覇市で女性にわいせつ行為をし、けが負わす
2012.10	海軍兵２人が帰宅途中の女性に暴行
2016.3	観光客の女性に対する準強姦容疑で海軍１等兵を逮捕

図45.

● **「由美子ちゃん事件」**

1つ目は1955 年 9 月 3 日、沖縄県石川市（現うるま市）で、当時 6 歳の永山由美子ちゃんが、 嘉手納基地所属の米兵によって拉致・強姦され、翌日死体で発見された「由美子ちゃん事件」です。由美子ちゃんは映画を見に行ったまま行方不明となり、犯人に車で拉致され嘉手納基地内に連れ込まれ、軍の施設内で何度も強姦され、最後には下腹部から肛門にかけて切り裂き米軍施設のゴミ捨て場に捨てられました。発見された時の由美子ちゃんは唇をかみしめ、右手に数本の雑草を握りしめるように亡くなっていました。犯人は事件から１週間後に逮捕されました。

- 「沖縄米兵少女暴行事件」

　２つ目の事件は1995年「沖縄米兵少女暴行事件」です。この事件は、3人の米兵が沖縄県北部で当時12歳の女子小学生を拉致したのち集団強姦し負傷させるという事件でした。

以上2つの事件に注目して紹介しましたが、**どちらも容疑者に対する処罰は非常に納得のいくものではありませんでした。**由美子ちゃん事件の容疑者は逮捕され死刑が下されましたが、その後本国アメリカに送還され、刑が45年の重労働刑に減刑されました。少女暴行事件の3人の容疑者は、県警の捜査により関与は明らかでありましたが、日米地位協定の取り決めによって逮捕状を発布請求しても身柄が日本側に引き渡される事無く、捜査に支障が出ました。その後、彼らは懲役6年7か月が決定しました。
ここでは紹介できなかった事件・事故も数多くあります。さらに、公にはされていないものもたくさん存在するのが、沖縄の現状です。

図46.

米兵の少女暴行事件への抗議集会後、
那覇市内をデモ行進する集会参加者＝１９９５年９月２５日、那覇

日米地位協定

米軍の犯罪の所でも出てきた「**日米地位協定**」
これはどんな協定であるのか、この協定がもたらしているのは、平等か、それともアメリカへの配慮か。

- 米軍関係者による犯罪の対処

犯罪を犯した米軍関係者は、軽い刑で終わることがほとんどでした。それは、**日米地位協定に基づいているから**です。この協定はアメリカ優位の協定であり、第一次裁判権もアメリカが保有していたので、アメリカ側が無罪を下せば容疑者も無罪放免になってしまうという**治外法権的な不平等協定でした。**被害者たちはこの協定の前に泣き寝入りするしかないという状況に置かれていました。

〈裁判権以外の内容〉

- ビザなしでの入国が可能
- 国際免許証は必要なし
- 基地返還時に、土壌汚染がある場合でも米軍側は汚染除去の義務を負わない
- 米側が身柄を引き渡さない場合、日本の法律が適用できない

平等とは言えない！

・これは日本・沖縄だけ？他国はどうだろうか

　米軍兵による沖縄県での犯罪の数々や日米地位協定による不平等な沖縄の立場。ここで皆さんに、疑問を持ってほしいことがあります。それは沖縄と同じように、「**米軍が駐留している他の国はどのようになっているのか**」ということです。ここから、他の国の状況を見てみましょう。沖縄県が運用している、米軍駐留国の実態を比較したポータルサイトによると、イタリアとドイツでは駐留米軍に対して**国内法を適用**しており、**基地内全てに自治体などが立ち入ることができる**と明記しています。さらに訓練や演習も駐留国の許可が無ければ実施できませんし、警察権も各国の警察や軍隊が持っています。日本とはとても似つかない協定内容だとは思いませんか。ちなみに日本は上で述べた内容を記した条文が協定に無いため、アメリカ優位の状況になっています。隣国の**韓国**はどうでしょうか？韓国も日本と同様にアメリカ優位の協定を結んでおり、沖縄の様に公正ではありませんでした。しかし、度重なる事件・事故の発生がアメリカに配慮した対処になっている事に韓国国民の怒りが爆発、のちに**韓米地位協定(SOFA)の改正に成功**しており、イタリア・ドイツ同様に各国の主権のもとに米軍が駐留しています。

- **日本は甘すぎるのでは？**

　以上の様に、他の米軍駐留国の状況を見てみましたが、他国に比べて日本がアメリカ側に軽く見られているのが明らかだと思います。沖縄で起きた少女暴行事件後に、日米地位協定は改善(改正ではない)されましたが、それでも**アメリカ側の好意的な配慮が必要**となっています。日本も主権国家であるのに、今の沖縄における米軍関係者による**事件・事故が日本の法律で正しく裁けないという事実**、沖縄県民が泣き寝入りするしかない現状。今までに何人もの県民が犠牲になっているにも関わらず、これを当たり前だと思い、仕方なく受け入れてもいいのでしょうか。皆さんはどう考えますか？

日本にとって大切なのは、、、？

「国民の命」

or

「アメリカとの関係」

・本当の問題とは

　これまで米軍の犯罪と日米地位協定に関して述べてきましたが、最後に私からもう1つ考えてほしい事があります。それは**沖縄での事件・事故を含めた基地問題全体が、沖縄県だけの地域問題になっているのではないか**という事です。本来は、他国の様に国内全体で声を上げなくてはならないはずなのに、日本では沖縄県だけが抱えている現状にあります。**皆さんは、基地問題について日本全体の問題として考えたことがありますか？**基地問題は沖縄の地域問題ではなく、しっかりと日本全体で見つめ直し、取り組むべき課題ではないでしょうか。

【＃知らない沖縄】今さら聞けない沖縄新基地建設問題7つのポイント

日本経済新聞(2017年7月31日)
「普天間基地の一部、4ヘクタールが先行返還」

沖縄タイムス(2011年3月6日)
「沖縄の米軍基地の現状」

参考資料

図1.
https://www.google.com/imgres?imgurl=https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/2/2d/Meiji_tenno1.jpg&imgrefurl=https://ja.wikipedia.org/wiki/%25E5%25BE%25A1%25E7%259C%259F%25E5%25BD%25B1&tbnid=7Yx7L_531Cy9-M&vet=1&docid=jpfpr83nSxvgxM&w=879&h=1203&hl=ja&source=sh/x/im
図2.
https://www.google.com/imgres?imgurl=https://www.asahicom.jp/articles/images/AS20190622002016_comm.jpg&imgrefurl=https://www.asahi.com/articles/photo/AS20190622002016.html&tbnid=B7OFkl6qSMwVSM&vet=1&docid=B5cvFvNRmltAiM&w=427&h=640&hl=ja&source=sh/x/im
図3.
https://www.google.com/imgres?imgurl=http://www.liuqiu-china.com/data/attachment/forum/201508/04/075205t418m4dnhghzilgf.jpg&imgrefurl=http://www.liuqiu-china.com/portal.php?mod%3Dview%26aid%3D2253&tbnid=HXTpwLlJqqTmWM&vet=1&docid=bgmg3iPyB6TrgM&w=647&h=485&hl=ja&source=sh/x/im
図4.
https://www.google.com/imgres?imgurl=http://gastrocamera.cocolog-nifty.com/photos/uncategorized/2009/01/11/img035_2.jpg&imgrefurl=http://gastrocamera.cocolog-nifty.com/blog/2009/01/post-6e09.html&tbnid=R9iTfmNPoZEXeM&vet=1&docid=yWsglS4-ABTG1M&w=300&h=217&hl=ja&source=sh/x/im
図5～10.
https://www.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/okinawa/
図11.
https://maps.gsi.go.jp/index_m.html#5/36.102376/140.075684/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1
図12～15,16,21,22,23,24,25,21～28
https://www.archives.pref.okinawa.jp/
図17,26
実行委員による現地での撮影
図18.
https://search.yahoo.co.jp/image/search?p=%E5%85%AB%E5%8E%9F%E5%8D%9A%E9%80%9A&fr=top_ga1_sa&ei=UTF-8&ts=9211&aq=0&oq=%E5%85%AB%E5%8E%9F%E5%8D%9A&at=s&ai=fc228992-ce27-44e4-9124-5a71646315bb#33459eed34e38259cd894701be7162da63b84ef4cded0a181819b09705e86738
図19.
https://search.yahoo.co.jp/image/search?p=%E9%95%B7%E5%8B%87&fr=top_ga1_sa&ei=UTF-8&aq=-1&oq=#1bf0e13d3e7ebfb93893a7a21d800c715adcb0496311b015a775487c42af6635
図20.
https://search.yahoo.co.jp/image/search?p=%E7%89%9B%E5%B3%B6%E6%BA%80&fr=top_ga1_sa&ei=UTF-8&aq=-1&oq=#fba42c5ebee553237375667a05f4db9196b2fcacad55b5de94ee197c6b31d548
図29.31
降伏文書調印式　朝日新聞より
図30.
普天間基地造設の様子　宇宜野湾郷友会編「写真集じのーんどぅーらむ」
図32
沖縄本土復帰の様子　沖縄タイムスプラス
図33.
米兵少女暴行事件への抗議集会　時事通信社
図34.35
https://okinawa.kawawii.com/%E6%AF%8E%E9%80%B1%E5%9C%9F%E6%97%A5%E3%81%A9%E3%81%93%E3%81%8B%E3%81%A7%E9%96%8B%E5%82%AC%EF%BC%81%E6%B2%96%E7%B8%84%E7%B1%B3%E8%BB%8D%E5%9F%BA%E5%9C%B0%E3%81%AE%E3%83%95%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%9E/?amp=1
図36.
実行委員による現地での撮影
図37.
宜野湾市役所ホームページより
図38,39.
朝日新聞デジタル

参考資料

図40.
https://ryukyushimpo.jp/news/entry-904034.html
図41.
https://www.jcp.or.jp/akahata/aik12/2012-09-08/2012090814_01_1.html
図42.
https://joe3taro.com/?p=1188
図43.
https://www.google.com/imgres?imgurl=https://heiwa.yomitan.jp/DAT/LIB/WEB/4/p0924.jpg&imgrefurl=https://heiwa.yomitan.jp/3/2448.html&tbnid=qtZZrto94uTKoM&vet=1&docid=J_l8UHpaOCLwOM&w=720&h=810&hl=ja&source=sh/x/im
図44.
http://andreagritti.blog112.fc2.com/blog-entry-2220.html
図45.
https://www.jiji.com/
図46.
https://ryukyushimpo.jp/

Peace Now! 2020 NEWS
No.05
2020.09.03.

PN!Okinawaの紹介

現時点での計画をお伝えします！

Peace Now! 2020のテーマ

戦後75年 未来へのバトン

Peace Now! Okinawa 2020の概要

Peace Now! Okinawa2020の現地開催は新型コロナウイルスの感染拡大防止を鑑みて、中止とします。

動画や冊子を用いてなどの媒体を用いて、全国に発信する予定です。

セミナー獲得目標

✓ 組合員が多角的・多面的に沖縄戦や基地問題を見れるようになる。

✓ 組合員が今社会で起きていることに対して自分なりの意見を持つ。

沖縄から考える社会の問題

今回のPeace Now!Okinawa2020（以下PN!O2020）では、75年前にあった沖縄戦や現在沖縄県で起こっている基地問題などを多角的・多面的に考えていきます。現在、日本の国土面積の0.6％しかない沖縄県に、日本にある米軍基地の7割以上が集中しています。騒音問題や米軍人による犯罪、クリアゾーンによる問題など様々な問題があります。

その事実に対して、沖縄だけの視点で考えるとただ単におかしいことだと思われるかもしれませんが、沖縄・日本・アメリカの立場を知ることで何が問題なのかを戦中・戦後を踏まえて考えていきます。

また、沖縄で起きていることだけを考えるのではなく、それを通じて今自分たちの身の回りの社会で起こっている出来事にも目を向けていけるようなものになっています。

今年度は現地開催は中止となりフィールドワークで実際に自分の目で確認することはできませんが、上記のことを現地実行委員会の学生が別の手段を使って、伝えきります！

PN!O2020を通して、自分の考えを整理し、言語化することで自分の身の回りの人とぜひ交流してみてください！

Peace Now! が気になっているあなたへ！

全国大学生協連HPには
Peace Now!特設ページがあります。
https://www.univcoop.or.jp/peacenow/index.html

- これまでのPeace Now!
- Peace Now!をそれぞれ紹介
- インタビュー活動

などを見ることができます！
二次元バーコードを読み込んで見てみよう！

インタビュー記事や
過去のPeace Now!の情報などが
あります！

Peace Now! Okinawa 2020 現地実行委員からのひとこと！

今回は沖縄での開催はなくなり、みなさんと一緒に学ぶことができず残念です。いつもとは違う形とはなりますが、今冊子を作りを頑張っています！完成したらぜひ読んでみてください！

家にいる時間が多い中、考えなくてはならないことも増えてきました。今自分たちに何かできるか考えましょう！

今回は現地開催が中止になり、実際に自分の目で見ることができません。しかし、冊子を読んで気になったことはどんどん調べましょう！そして、いろんな人と交流してみませんか？

今年はコロナでセミナーを開催することができませんでしたが、今年の経験を生かしてパワーアップするのでPN!0はまた来年来てくださいね！

ご飯いっぱい食べて元気でいよう！！！

例年のPN!0とはひと味違う形式になります！まずは冊子・動画を見て私たちが学んで、組合員の仲間に伝えていきましょう！

戦後75年、今できる伝え方で平和を発信していきます！

「オキナワ」を通して平和とは何かを身近に考えるきっかけづくりができる冊子と動画を頑張ってつくります！！

セミナーは出来ませんが、セミナーに負けないくらい有意義なものを作りたいと思います！

次回は長崎をご紹介！　お楽しみに！

univ. CO-OP
発行元：全国大学生活協同組合連合会｜執筆者：吉村暢基（全国学生委員会）
お問い合わせ：Peace Now! セミナー事務局（nfuca-PeaceNow@univ.coop）

Peace Now! 2020 NEWS
No.13
2020.11.21.

事後交流会やります!

2020年度テーマ：「戦後75年 未来へのバトン」

Peace Now! 2020 セミナー進捗状況

広島 11月28、29日に実施します！

長崎 11月14、15日に実施しました！
全国から7会員26名（運営込み）が集まりました！

沖縄 年内に実行委員が作成した冊子、動画を配信します！

Peace Now! 2020 事後交流会の概要

日　　時：2021年2月13 日(土)　13：00～18：00（予定）
場　　所：オンライン開催（zoom）を予定しています。
申込方法：後日、詳細な開催案内をお送りします。そちらに記載予定ですので日程を空けておいてください！
内容(案)：それぞれ参加して感じたこと、考えたことを交流する
参加後に行動した平和活動を交流する
フィールドワークの復習（バーチャルでしてみる…？）
やりたいことはあったら教えてください～！

←2020年度
2019年度→

左から
長崎
広島
沖縄
です！

企画詳細や当日に向けた案内は、全ての地域で開催後発信していきます！

univ. CO-OP
発行元：全国大学生活協同組合連合会｜執筆者：田島慶大（全国学生委員会）
お問い合わせ：Peace Now! セミナー事務局（nfuca-PeaceNow@univ.coop）

Peace Now!
2020

Peace Now! Okinawa2020 実行委員会